

別紙様式3

平成29年度 第2回 岐阜県立池田高等学校活性化協議会 議事要旨

日 時	平成30年2月8日(木) 13:30~15:30
場 所	池田高等学校 会議室
出席者 (敬称略、 50音順)	飯 田 静 世 神戸町子育てボランティア団体代表 岡 崎 和 夫 池田町長 岡 崎 眞 治 太陽工業(株) 常務取締役 国 枝 慎太郎 岐阜県議会議員 国 枝 磨須美 池田町教育長 小 林 月 子 サンビレッジ国際医療福祉専門学校長 須 原 政 博 岐阜県立池田高等学校同窓会長 竹 林 一 彦 神戸町立神戸中学校教頭(校長代理) 谷 村 成 基 神戸町長 西 川 菊 雄 池田町上田区長 野 原 恵 子 元池田高等学校育友会役員 藤 井 弘 之 神戸町教育長 松 岡 政 美 池田町商工会長 山 川 実 岐阜県立池田高等学校育友会長 吉 田 秀 慈 池田町立池田中学校長 野 畑 伸 芳 岐阜県立池田高等学校長 藤 吉 和 彦 岐阜県立池田高等学校教頭 下 野 宗 紀 岐阜県教育委員会教育総務課課長補佐

議事概要	<p>1 今年度の学校活性化に向けた取組と今後の課題について(学校長より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回活性化協議会でいただいた提言について ・魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策について ・地域と連携した事業について ・中学生や地域への広報、情報発信について ・平成30年度に向けた課題について <p>2 先進校視察報告(視察した職員2名より報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 宮城県仙台二華高等学校、宮城県石巻好文館高等学校について ○ 岡山県立和気閑谷高等学校、岡山県立林野高等学校について <p>3 今年度の取組の体験発表(代表生徒4名が発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学進学 金沢大学医薬保健学域合格(3年生) ○ ボランティア活動 ESD国際交流プログラムへの参加(2年生) ○ 国際教育 ニュージーランド研修への参加(2年生) ○ 地域貢献 家庭クラブによる地域の環境保全活動(2年生) <p><生徒の発表に対する委員からの感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが一生懸命研究した成果を聞かせていただき大変感動した。それぞれ夢に向けて挑戦の気持ちを忘れず頑張ってもらいたい。環境保全については、古田知事は清流の国づくりを推進しており、それは長良川だけでなく岐阜県全体の川を指している。東川も大変美しい川なので、その環境を守るためにこれからも活動を続けてほしい。皆さん大変な緊張の中で堂々と話をされて素晴らしい。 ・学校評議員として4年前からずっと学校を見学させていただいているが、ユネスコスクール認定後から生徒たちがメキメキと輝いており、とても感動している。揖斐郡と安八郡では郡が異なるため、社会福祉協議会からボランティア依頼が困難な状況の中、
------	--

エコプラザを始め大変活躍していただいた。皆さんの発表の中にボランティアに関連した話が沢山出ており、ボランティア意識が非常に高まっていることを実感した。

- ・池田町の様々な活動の場で、池田高校の生徒さんにお手伝いいただき、とても感謝している。活動には生徒一人一人が自分の目標を立てて取り組んでおり、住民の方々の中に入り込んでお手伝いしていただけるので住民も元気ももらっている。

4 意見交換

<テーマ>地域と連携し活力ある池田高校にするための来年度に向けた取組について

- ・高校入試制度が全県一区になることで、進路希望に影響がでているのか教えてほしい。
(教育総務課より回答)

○現中学3年生より全ての地区から全ての高校を受験することが可能となるが、1月に公表した進路希望調査の結果によれば、現段階においてほとんど影響がないというのが実状である。懸念された東濃・飛騨地区から岐阜地区の一部の高校に特に集中するような状況は現時点では見られない。

(学校長より回答)

○池田高校を希望している生徒の内、岐阜地区からの希望者も数名いるが、昨年度の状況を考えると極端な流入はあまりない状況である。

(教育総務課より回答)

○池田高校を希望する生徒は昨年度より若干増えている。揖斐郡の卒業予定者数が若干増えている背景もあるが、こうした協議会の成果もあり、池田高校のよさが中学生に伝わり始めているのではないかと。

- ・先進校視察では単位制の学校が多かったとの説明があったが、視察した先生方は池田高校も単位制の高校にすべきだと思われるか。

(県外視察をした教諭より回答)

○単位制であるかどうかについては、中学生はあまり関心がないのではないかと。しかしながら、学校側の運営面から考えると、学校独自科目の設定や少人数授業の実施等、メリットは考えられる。

- ・池田高校が仮に単位制を導入し、きめ細かな教育を行うためには、教師を加配する必要等が生じるが、この協議会で出た要望は県に伝えて検討していただけるのか。

(教育総務課より回答)

○協議会でいただいた貴重なご意見については間違いなく県に伝える。

- ・生徒を集めるために新しい学科の新設は可能なのか。三重県の相可高等学校は食物調理科が設置され、倍率も高いとテレビで紹介されていた。

(教育総務課より回答)

○現在、それぞれの高校を単独校として残す方針の中で動いており、その時代や地域のニーズに合った定員規模や学科構成の在り方等を検討しているところである。新しい学科の設置も池田高校の総意ということになれば、今後検討していく可能性はある。

- ・岐阜経済大学と池田高校は提携をしたが、大学の説明によれば、中学・高校の時から看護師や保健師になることを目標にしている生徒が増えているとのこと。それらを考慮すると、例えば特色ある専門的な学科を設置することは可能であるのか。

(教育総務課より回答)

○本校が医療・福祉・看護という特色を打ち出している他、最近では訪問された仙台二華高校や大垣北高校がSGHに指定されたように、普通科でも各校が特色を出し始めている。今回、全県一区とした背景には、普通科の高校がこのように様々な特色を持ち始めた中で、生徒たちが自由に高校選択をできるようにしたい、ということも理由の一つである。地域人材の育成や地域創生を基に、特色ある教育活動を展開することで将来を見据えて池田高校へ進学し、特色ある教育を学び、地元で活躍したいという子どもたちが増えてくれるとよいと考えている。ただし、普通科の本校に相可高校のような専門学科としての調理学科の設置となると、県全体のバランスや様々な設備への

予算や教員の配置等が必要となるため、学校の意向だけで進めることは難しく、県教委全体として、財務課等も含めた協議が必要となる。

- ・時代を先取りした高校を作りたいという思いがひしひしと伝わり敬意を表する。高齢化が進み2025年問題を見据え医療・福祉・介護が必ず必要となる時代が来る。厚労省は地域包括ケアとして住まい・医療・介護・リハビリ・住人全てがその中で完結する専門家を育てようとしている。医療と看護はよくスポットライトが当たるが、介護やリハビリについてはまだまだ当て方が少ない。実は介護は量的にも質的にも必要となる。迫りくる超高齢化社会の中で、在宅で人間らしく生きるためには、どういった専門職が必要となるかを認識し、そのための人材を地元で養成し、地元就職してもらい、結婚して地元で根を下ろしてもらおうよう考える必要がある、池田町ならそれができると確信している。そのためには、高校教育と町の自治体との連携が大切となってくる。
- ・池田高校において本校の3年生が授業を受けさせていただいたり、韓国の学生たちと交流をさせていただくなど交流の機会を得た。本校は池田町から支援・協力を得てキャリア教育活動を進めている。NPO法人アスクネットの協力のもと、3年生が15種類の職業から希望する職種を3種選び、ブースに説明を聞きに行く活動を行ったが、その際に看護希望者が一番多かった。全校生徒800名中75%の600名が地域のボランティア活動に参加している。小学校で学んだボランティア教育を引き継ぎ、中学校で子どもたちの福祉への意識が更に高まり、多くの優しい子どもたちが育っている。池田高校へ進学した場合の進学先や就職先といった具体的な進路の道筋を生徒と保護者に示し、アピールすることが大切ではないか。

(教頭より回答)

- 第1回目でご提言いただいたPR用パンフレットを作成し、24校程度を訪問してPR活動を進めてきたが、その中で高校を選ぶ際に現実の姿として分かってきたことは保護者が進路選択をする際に、塾の指導の影響も大きいということである。昔の高校入試とは異なり多くの生徒が公立高校の受検が不合格となり、不合格だった場合は私立高校へ進学すればよいという発想の流れの中で、高校が特色を出し、地域に期待される学校とならなければならないことを、実際に中学校を訪問する中で痛感した。

本校は学校長が申し上げたとおり、3本の柱で特色ある学校づくりを進めてきた。

- 1つ目には進学できる学校、2つ目には看護・介護・福祉を進める学校、3つ目にはESDを柱にボランティア活動を通して地元で貢献できる学校である。その学校が作り出していく魅力と学習塾等が持っている物差しとどれくらい拮抗できるのかといったジレンマがある。第1回目の提言を真摯に受け止め、パンフレットを基にPR活動の展開、地元大学・短大との連携等、学校として最善を尽くしてきたが、更なる改善を目指していきたい。

- ・池田高校の生徒たちがハリヨ池の清掃活動を始めとし、お年寄りや子ども達との交流等、積極的にボランティア活動に参加してくださっていることは地域住民にも十分伝わっている。先日の韓国学生との交流では、ユネスコスクールのシンボルマークの入った名刺を交換する姿を見て、岐阜県で最初のユネスコスクールとして認定されたことを誇りに感じた。新しい女子の制服も素晴らしく、岐阜経済大学との提携を新聞で拝見した際にも非常によく動いてくださっていると感じた。そういった学校の取組が今日発表した生徒たちの自信となって表れている。そういう子どもたちを育てていただくと大変ありがたい。
- ・池田高校は様々な取組を実践し、素晴らしい学校であるにも関わらず、現実にも池田高校の雰囲気について心配する保護者がいる。学校説明会では、生徒や保護者へそういったことも付け加えた説明をしてもよいかも知れない。

(学校長より回答)

- 岡山県立林野高校は3つの類型に分かれており、進学コース、地域貢献・理解コース、

部活動コースの中から子どもが選べるようになっている。過疎化が進む地区の高校ではあるが、現時点で国公立大学に合格者を17名出すなど、コース分けがはっきりとなされることで成果を上げていることから、このような方向性もある。本校では、習熟クラスが進学コースとして国公立大学に合格者を複数名出している。部活動においては独自検査において野球部で枠を設けており、全学年を合わせると40名近い部員が集まり、施設設備も拡充し大変整ってきている。文科系部活動においても吹奏楽部や演劇部が成果を上げ頑張っている。勉強が苦手な生徒には基礎科目を伸ばす指導をこれからも行っていく。地域貢献においては、様々なボランティア活動を基に、生徒たちが自ら自分の生き方・将来の道を見つけていく。更にはICTを活用し、地域理解や地域貢献を柱として進めていくことで、学校のカラーをより明確にしていける。

5 まとめ

(教頭より)

- 皆様のお話をお伺いし、この数年で本校が素晴らしい方向へと変容を遂げている一方で、その姿をもっとPRしていく必要があることを改めて実感した。特色ある普通科として単位制など仕組みから変えていくのか、或いはカリキュラムを工夫するなど現状を更に深めていくのか、来年度に向けて今後具体的に検討していきたい。

(教育総務課より)

- 池田高校の取組に今年一年、ご意見やご協力をいただき感謝申し上げる。池田高校は普通科高校ではあるが、ユネスコスクールとして医療・福祉・看護の分野に特化した教育活動を行っている他、韓国の高校生との交流や英語教育にも力を入れ、また、家庭クラブを代表とする地域連携も進めるなど、大きな特色を打ち出している。少子化は日本全体が抱える課題であるが、池田高校は地元の皆様にご協力いただき、翻って、次世代の高等学校の在り方を探り、県をリードし、日本をリードするような学校になりつつあると感じている。来年は更にご協力とご意見をいただきながら、本校がより魅力的な地域に根差した学校となっていけるよう、よろしく願いしたい。

(学校長より)

- 本日はご多用の中、新たなご意見をいただき感謝している。教育にかける情熱を皆様からいただいた。本日4名の生徒が代表して話をしたが、この3年間をかけてこのような生徒たちを育ててきた。これをまた見える形でPRし、こういう生徒たちを増やしていきたい。また、生徒たちの目ををどうやって地域に向けさせるかが、教師力だと考えている。今日は決意の意味を込めて、こういうことをやりたいと話をさせていただいた。色々な困難はあるかもしれないが、ICT教育を始めとし、熱意をもって我々教師が取組を進めていく中で、皆様のご支援をいただければ、それが子どもたちに還元されていく。「大人が子ども達を育てる」という温かい社会作りをこの学校で進めていきたい。これからもご支援を是非お願いしたい。